

---

## 顔相幸座 講師 原田優子 氏 インタビュー

インタビューライター: 毛利美菜子 2022/6/21

---



### たくさんの人を笑顔にして、 全力で励ませるような仕事をしたい

--「顔相チェック」のお仕事をするようになったきっかけを教えてください。

原田 東日本大震災が一番大きいですね。私の身内や友人も被災し家が津波に流されたり、婚約者が亡くなったりと、辛く苦しい体験をしました。あまりに色々な悲しい事があって日本全体が喪に服するような、そんな時期でしたよね。大変な目に会った友人をどう慰めてあげたらいいか言葉が見つからなかった…。未だかつて日本が経験したことの無い大惨事に見舞われてみんなが大変な時に、私ここで何やってるんだろう？って、何かしなくちゃって思ったんです。たくさんの人を笑顔にできるような仕事を見つけなくっちゃって…。

--それまでは別のお仕事をされていたんですよね？

原田 主人の年収が低かったので、子供を育てるためにどこかで働かなきゃと思っていたんです。そしたらたまたま、エステサロンをやっている知人から「面白い仕事があるからやってみない？」って誘われて、話を聞いたら面白そうだったので、夫に相談したら「家のこともちゃんとやるなら、やってもいいよ」と言われ、医療機器販売の仕事を始めました。

--結婚するまではどんなお仕事をしていましたか？

原田 幼稚園の先生です。本当は小学校の先生になりたかったんです。子供たちと一緒にいろんな勉強ができて楽しそうだなって思って。昔は「先生」というと、憧れの職業だったんですよ。それに母親がよく言っていたんです。「これからの女性は手に職。男の人に食べさせてもらう時代じゃない。何かあっても自力で生きていけるように、手に職を持ちなさい」って。ところが、いざ私が小学校の先生になりたいって言ったら、「うちは貧乏だから大学には行かせられない」って言われてしまい、それなら2年制の専門学校だったらなんとかなるだろう(当時高額な専門学校は少なかった)ということで、次に憧れていた幼稚園の先生を目指したわけです。当時は「経済力がないという理由でやりたいことができない」ということは、本当に悔しかったですね。

--ご主人と出会った頃の話をお聞かせください

原田 幼稚園に勤めていたとき、夫はキャノンに勤めていたんです。私の友人もキャノンに勤めていて、ある日人数合わせでスキーのバスツアーに誘われたのがきっかけで夫と知り合ったんです。なんか目つきの悪い男だなと思ったんですよ。そしたら向こうも目つきの悪い女だと思っていたみたいで(笑)。帰りのバスの中で「おいちよかぶ」っていうゲームをしていたらすごく盛り上がり...。多分うちの夫、私みたいな女は今まで周りにいなくて、相当インパクトがあったんだと思います。当時の私はもっと元気だったから。「この子と結婚したら元気な子供を産んでくれるんじゃないか」と思ったんですって。それで交際が始まり、勢いで結婚までいったという感じです。22才の頃。



--ご主人はキャンン勤務なのに年収が低かったんですか？

原田 それがね、ずっとキャンンの社員だったら良かったんですけど、夫の家は精密機器の設計製造販売の会社で、長男なので継がなければならなかったんです。本当は継ぎたくなかったんですけどね。

--なるほど。それで家を継ぐことになってから、時代の流れもあり業績が悪化して経済的にゆとりがなくなってしまい、原田さんも働くことになり、医療機器の販売を始めたと...

原田 そうですね。どちらかというと、子供たちの将来を考えて、私も働かなければ、という気持ちになったという感じです。医療機器の販売も最初はよくわからなかったんですけど、こういう性格だからめっちゃくちゃ頑張りました。結構その仕事が性に合っていたのか、**月商1億円以上やり続けました。**1台25~40万円ぐらいの機械をたくさん販売して...。夫はその間子供の面倒を本当によく見てくれて、絵に描いたような良いパパで、今だって私の親も引き受けてくれて、感謝しかありません。

--それほどまでにバリバリに仕事に打ち込んでいたけれども、震災で価値観が変わったということですかね？

原田 そうですね。価値観が変わりました。いっぱい稼いで**お金を持っていても、いい車に乗っていても死ぬときは死ぬんだ**ってことを思い知らされたんです。それに、ピンチの時に心配することはみんな同じなんですよね。大事な人のことを真っ先に思う...。**自分のことだけを考えていてはいけない、沢山の人を笑顔にして、全力で励ませるような、そんな仕事をして社会に貢献しなきゃって思ったんです。**で、そういう仕事はないかなっていろいろ探していたらある日「顔相」に出会ったん

です。

## 鑑定前と後で、顔が変わる 最後はみんな満面の笑顔になるんです

--「顔相」の何にピンときたんでしょうか？

原田 まず「生年月日が要らない」ということが一番ですね。顔を見るだけで全部分るので、いつでもどこでも身一つで鑑定できるんです。シンプルで分かりやすい。それに統計学とは言いつつも、脳科学と遺伝子工学が入った「学問」ということで、ある程度の裏付けがあるんです。それも自分にはすごく響いたんですよ。

--なるほど。この仕事の面白いところは何でしょうか？

原田 皆さん、鑑定前と後で、全く顔が変わるんですよ！それが面白い。何言われるんだろうってワクワクして来る人もいれば、不安そうな顔して来る人もいる。でも**最後はみんな満面の笑顔になる**んですよ。みんなに「受けてよかった」と言われるんです。今日は楽しかった、ありがとうって。紹介もいただいたり。そういうことがすごく嬉しくて。

--この仕事をやっていて何か大変なことってありましたか。

原田 今まで大変なことがいっぱいありすぎて、全然大変だとは思わないです。ただ、これから「顔相診断」を広めるという使命があるので、やっぱり頭を使いますよね。世の中に認知させるためにはどうしたらいいか、とか。

--マーケティング的な大変さですね。

原田 収入的なことを考えたら前職に比べて雲泥の差なんですけど、絶対に「顔相」を世に広めたいし、広まっていくという自信もあるし。とにかく一生懸命やるっていうことですかね。



--人生を通して自分が大切にしている言葉はありますか？

原田 座右の銘って言うのかな？私が好きな言葉では“麻の中の蓬(よもぎ)”です。麻ってね天に向かって生えてくんです。だから子供の名前に麻という字をつける方多いですよね。一方ヨモギっていうのは地面を這うんですよ。だけど麻の中にヨモギを植えると、ヨモギも天に向かって生えてくんですよ。要するに人は、環境によっていくらでも変わることが出来るってことです。その言葉がすごく好きですね。

麻の中の蓬:まっすぐに伸びる麻の中に生えれば、曲がりやすい蓬も影響を受けてまっすぐに伸びることから。善人と付き合えば、その人に感化されて誰もが善人になるということ。

--仲間との間で大事にしていることは何ですか？

原田 いっぱいあるけど特に「ありがとう」って言葉ですかね。例えばご紹介いただきありがとうございました、とかね。それとあともう一つは、感謝の気持ちを心の中だけでなく態度や言葉で伝えることです。相手に寂しい思いをさせたくないんです。

--なるほど。天変地異が起きても絶対に変えたくないポリシーがあれば教えてください。

原田 嘘はつきたくないです。自分にも人にも正直に。人のことを陥れたり、騙したりとか、全部ひっくるめての嘘、それは絶対にしない。たとえ自分がされたとしても。

--今「顔相」の講座も立ちあげて沢山の人の人に教えていますが、次の世代にどんなふうに伝えていきたいと思えますか？

原田 子供たちにこの顔相っていうのを知ってもらいたいです。自分でコンプレックスだと思ってるところが意外と顔相では良い部分だったりするんですよね。特に子供はストレートじゃないですか。鼻の下にホクロがあつたりすると鼻くそとか嫌なこと言われますよね。子供のときに言われたことって、大人になってもずっと引きずってる人が多いんです。それを変えていきたい。それこそ鼻の下にあるホクロって「金満ぼくろ」って言ってすごくお金に恵まれるいいホクロなんですよ。そういうことが分かっていたら、それを原因にいじめられたとしても、「何言ってんだ大人になったら俺の方がお金貯まるんだぞ！」とか言い返せたり。そんな感じで私は次世代の子どもたちに広げていきたいなと思います。

## 困難に陥っている人を見ると 「何かしてあげたい」って思っちゃう

原田 私、自分の顔相を診ると、「母性愛」がすごく強いんですよね。何かしてあげたいって思っちゃうんです。

--幼い頃、親からは「どんな子供」だと言われましたか？

原田 父に「女にしとくのは勿体ない」ってよく言われましたね。体もメンタルもすごい強かったんです。2歳下の弟がいて、精神的に弱い子だったんです。私はそれを見ててムカついてしょうがない。馬鹿にされてもいじめられても、やられっぱなしだったから、見ててイライラするっていうか…。昔弟がいじめっ子に叩かれて怪我をして血を流して帰ってきた時に、とうとう堪忍袋の緒が切れて、私が代わりに仕返しをしに行って相手にも怪我を負わせたことがあります。母には怒られましたが、父には「良くやった！」って褒められました(笑)。

# 関わった人たちみんな、 いい人生だったって思える最期を迎えてほしい

--今現在の課題、目標など教えてください

原田 「顔相」を多くの人に知ってもらいたいので、「顔相幸座」を広めたいです。



相手の特性がわかると、相手の扱い方や、より良いコミュニケーションの仕方がわかるじゃないですか。そうすると、人間関係が良くなるんじゃないかなっていうのと、今一つ考えてるのは、親子で「顔相チェック」を受けてもらうのもいいかなと考えているんですよね。親は子供のことがわかるし、子供は親のことがわかる。子供間でも、例えば目が細くて目つきが悪くて意地悪そうに見えても、本当は何でもできる子なんだって子供同士で思えたり。そうなればいじめもなくなるんじゃないかなって。顔相を通して相手の特性がわかるようなこういう講座をしてるのは多分世界で私1人だけなんです。私はみんながいろんな人のことを理解して、それならこういうふうに接すればもっと仲良くなれるよね、みたいな、そういう世界を「顔相」で作りたいんですよね。

--近い将来2、3年以内の具体的な計画があれば教えてください。

原田 「年内に必ずテレビに出る」。ラジオやYouTube番組は結構オファーがかかっているんですけど、私がやっぱり本当に出たいのはマツコの番組。「マツコの顔相チェックをしたい」ってずっと言っていると、そのうち願いが叶うんじゃないかなって。テレビに出演したらもっと顔相が広がるので。私と同じような気持ちで顔相を広めてくれる人たちを、たくさん募りたいですね。

--原田さんにとって、理想の未来を教えてください。

原田 最終目標は、この「顔相」を私の代で終わらせないで、未来へ繋げていきたい。これから大人になっていく小さな子どもたちにこの顔相を知ってもらって、いじめがない、そういう世界を作りたいですよね。最近もう1つやりたいことができ、あくまでもできたらいいかなっていうレベルなんですけど。現在、私の母も夫の母も同居しているのですが、弟も障害者になってしまって、自分たち夫婦もだんだん年老いていく...そんなタイミングで思いついたことですが、理想のシルバーホームを作りたいですね。今のシルバーホームって障害者になると年寄りも若い人も関係なく「障害者」でまとめられてしまうんです。ほとんどの場合、弟みたいにまだ60歳ぐらいでも、80~90歳のおじいちゃん、おばあちゃんと同じ施設に入れられちゃう。なので、障がい者のための、ある程度年齢別で利用できる施設を作りたいなって。あとは子供たちと障害者、子供たちとお年寄りみたいな感じで幼稚園とか保育園も併設している施設。実際あるんですけどね、そういうところ。



--やっぱり原田さんは母性愛が強いんですね。弟さんのことがあったからそういうことを思うようになったわけですね。

原田 そうですね。あまりにもかわいそうだと思って。

--そうやってみんなが自己肯定感を保ちながら幸せに過ごせるような、未来を目指しているということですね。

原田 そうですね、最終的にはやっぱり笑顔で死んでいてもらいたいです。あれやればよかつ



た、これやればよかったって後悔して死ぬんだったら、やっとうまくいかなかったけど、悔いはない、みたいな。自分で自分のことを褒められるようなそういう人生の終わり方をしたいです。だから今はまだ死ねないの。褒められないから。

--おそらく原田さんは心配無く、笑顔で死ねると思うんですけど、原田さんと関わった人も笑顔で死んでほしいってことですね。

原田 そうです。関わった人たちみんな、楽しかった、いい人生だったっていうふうに思える最期を迎えてほしい。後悔のないような生き方をしてもらいたいですね。

--今日は素敵なお話ありがとうございました！

<原田優子プロフィール>

生年月日

出身地

略歴

雑誌連載

- ・
- ・
- ・

メディア出演

- ・
- ・
- ・
- ・